

研修会報告「出張！脳性麻痺検討団JACPDM派遣プログラム-vol.1」

1. 概要

昨年度、日本脳性麻痺発達医学会（以下、本学会）の事業の一環として、脳性麻痺児に対する支援の質向上を目的に、依頼を受けた施設や地域を対象に、多職種の専門性を横断的に学ぶ機会として本学会理事が講師として現地へ訪問し、研修会を開催する内容となります。

研修会の構成は、「講義」と「症例検討」による、医師や看護師、療法士など各領域の講師が、最新の知見に基づき、日々の臨床実践に直結する示唆に富んだ内容となります。

この事業の第一回として、国立病院機構 南九州病院様にて「出張！脳性麻痺検討団JACPDM派遣プログラム-vol.1」が開催されました。

以下、本研修会の事業報告となります。

名 称 | 出張！脳性麻痺検討団JACPDM派遣プログラム-vol.1
主 催 | 日本脳性麻痺発達医学会
共 催 | 独立行政法人国立病院機構 南九州病院
対象施設 | 独立行政法人国立病院機構 南九州病院
日 程 | 2026年1月24日（土）～25日（日）



写真1. 会場となった南九州病院 様

2. 講義の特徴

講義は、南九州病院様と本学会にて事前に意見交換を行い、以下のテーマに決定しました。

テーマ	講師
脳性麻痺の病態と国際的な介入・評価の動向	荒井 洋 理事長
痙縮に対する外科治療～痙縮治療Firstを意識しよう	大島洋平 理事
NICUからの早期介入	横山美佐子 理事
リハビリテーションの目標設定と上肢機能アプローチ	吉田尚樹 理事

参加者からは、「最新の知見を学ぶことができた」「各専門職の視点からの話が理解しやすかった」といった肯定的な意見が多く寄せられた。特に、小児整形領域の内容については関心が高く、臨床の選択肢を広げる契機となったとの意見が聞かれました。



写真2. 荒井理事長の講義



写真3. 会場の様子

3. 症例検討の特徴

症例検討においては、講義内容に関連する症例の子どもと家族にご協力頂き、講師や参加者と一緒に、実際の対象児に対する評価および介入のプロセスを共有しながら、多職種でディスカッションを実施しました。

参加者からは、「医師とセラピストが同じ場で意見交換する機会は貴重である」「実際の臨床に直結する学びが得られた」といった意見が多く、実践的な学習の場として高く評価して頂きました。



写真4. 症例検討の様子

4. 今後の課題と展望

本研修会を通じて、多職種連携の重要性と、それぞれの専門性を活かした支援の在り方について理解を深めることができた。また、地域におけるネットワーク構築の意義も再認識され、今後の臨床実践に大きく寄与する内容であったと言えます。

今回の内容を活かし、今後は、より具体的な介入方法の提示や参加者同士の対話促進、共催者（事業依頼者）が円滑に運営できるように本事業をより整備していければと思います。

5. 次回開催予定

第2回研修会は今年度も開催予定しています。JACPDM会員を対象に募集予定しています。募集要綱が決まり次第、ご案内いたします。

謝辞

最後に、本事業にご協力いただきました米衛先生、佐野先生をはじめ、南九州病院の皆様には、迅速かつ手厚い事前準備ならびに当日の円滑な運営により、本学会としても第一回を

盛況のうちに滞りなく終えることができました。この場をお借りして深く御礼申し上げます。

南九州病院の皆様の今後ますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

2026年7月27日

JACPDM 理事 吉田尚樹